資料５－１

目黒川流域河川整備計画（変更原案）
説明資料

令和８年７月14日

目　次

1　流域及び河川の概要

・　目黒川流域の概要

2　河川整備の現状と課題

（１）過去の水害発生状況

（２）河川の整備状況

3　河川整備計画の目標及び実施に関する事項

・　洪水、津波、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

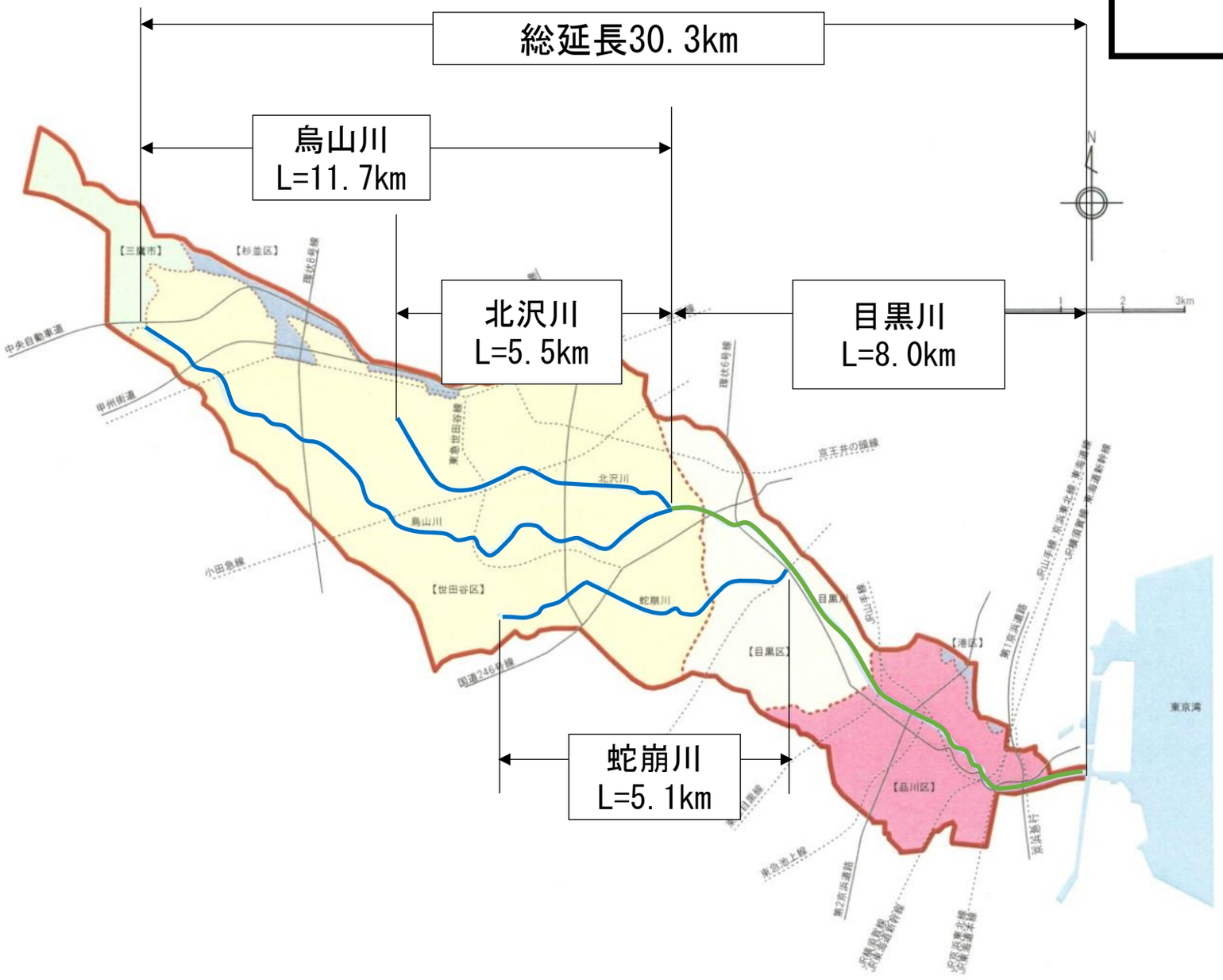
4　パブリックコメントの実施結果

1　流域及び河川の概要　－目黒川流域の概要－

- 流域面積　約 45.8 km^2
- 幹川流路延長　約 8.0 km（支川含めた総延長は30.3km）
- 支川：烏山川、北沢川、蛇崩川
  ※目黒川大橋上流部及び上記３支川は暗渠化
- 流域区市：５区１市（品川区,目黒区,世田谷区,港区,杉並区,三鷹市）

案内図





	流域面積（km^2）
品川区	5.7
目黒区	7.5
世田谷区	28.0
港区	0.5
杉並区	1.3
三鷹市	2.9
合計	45.8

※各区市で四捨五入しているため、合計値に差が生じています。

2　河川整備の現状と課題　（１）過去の水害発生状況

＜目黒川流域の主要水害記録＞

※1時間当たり50㎜規模を超えた浸水規模の大きい災害状況を示した表である

年月日	要因	雨量観測所	時間最大雨量(㎜/h)	日雨量(㎜)	床上・床下浸水		原因
					床上(棟)	床下(棟)	
S56.7.22	集中豪雨	世田谷	63	67	1,074	1,106	溢水・内水
S57.9.12	台風18号	世田谷	59	163	904	577	溢水・内水
S58.7.9	集中豪雨	上目黒	54	70	11	89	内水
S60.7.14	集中豪雨	世田谷	56	68	332	533	溢水・内水
H1.8.1	集中豪雨	上目黒	62	191	582	247	溢水・内水
H5.8.27	台風11号	上目黒	66	241	119	4	内水
H9.8.23	集中豪雨	三田	78	89	92	80	内水
H11.8.29	集中豪雨	三田	101	102	700	369	内水
H12.7.3	集中豪雨	三田	62	64	13	30	内水
H14.8.4	集中豪雨	品川	64	70	88	89	内水
H15.10.13	集中豪雨	北沢	64	66	28	29	内水
H16.10.9	台風22号	北沢	58	217	48	33	内水
H17.9.4	集中豪雨	烏山	100	188	151	109	内水
H17.9.11	集中豪雨	三田	71	81	20	3	内水
H25.7.23	集中豪雨	中央町	102	104	136	44	内水
H26.6.24	集中豪雨	久我山	56	62	11	1	内水
H26.6.29	集中豪雨	駒場	50	67	63	37	内水
H30.8.27	集中豪雨	玉川	114	114	29	17	内水

注）内水被害は 10 棟以上、溢水は全てを記載

出典：「水害記録」東京都建設局



平成元年の浸水状況



増水時の蛇崩川合流点

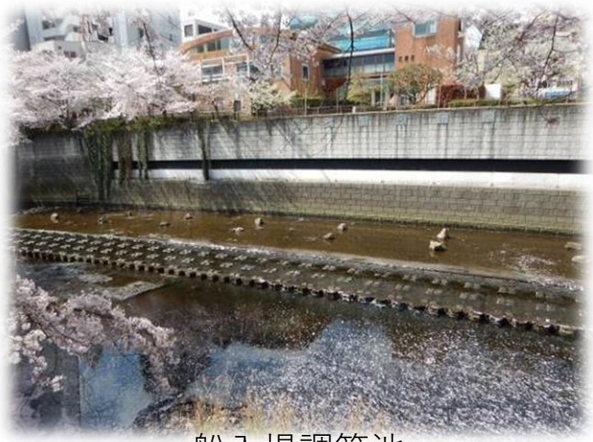
2　河川整備の現状と課題　（2）河川の整備状況

〔河川の整備状況〕 洪水対策

・1時間あたり50mmの降雨に対応する河道の護岸整備は、概ね整備済み

〔調節池の整備状況〕 洪水対策

・2調節池が整備済み（稼働中）



船入場調節池



荏原調節池



中里橋

凡例

- 未整備区間
- 護岸整備完了区間 ※今後河床掘削を実施
- 河道整備完了区間
- 暗渠区間
- 橋梁
- 耐震区間
- 二級終点
- 調節池(既存)
- 防災船着場
- 区市界

目黒川河川整備状況図（令和6年度末）

2　河川整備の現状と課題　（2）河川の整備状況

〔河川の整備状況〕　**高潮対策**

・伊勢湾台風級の高潮に対応する防潮堤の整備は完了

・現在、一部区間では耐震対策を進めている



目黒川　三嶽橋付近



目黒川　東海橋付近

3　河川整備計画の目標及び実施に関する事項

・洪水、津波、高潮等による
災害の発生の防止又は軽減

①河道拡幅、河床掘削、自然環境に配慮した整備

②調節池の整備

③地下河川の整備

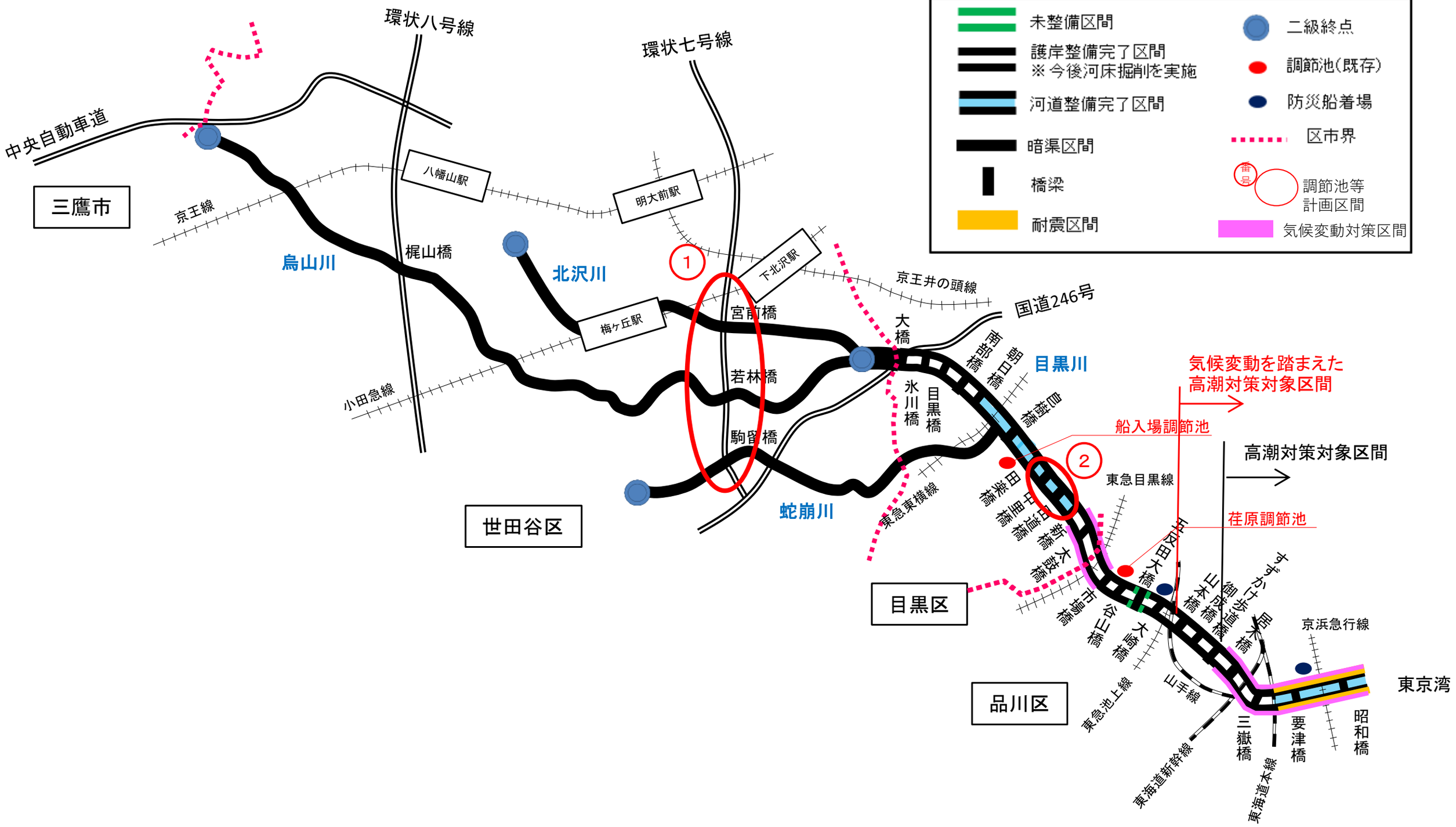
④防潮堤の整備

⑤耐震対策

3　河川整備計画の目標及び実施に関する事項

－洪水、津波、高潮等による災害の発生の防止又は軽減－

●目黒川流域 河川整備箇所図

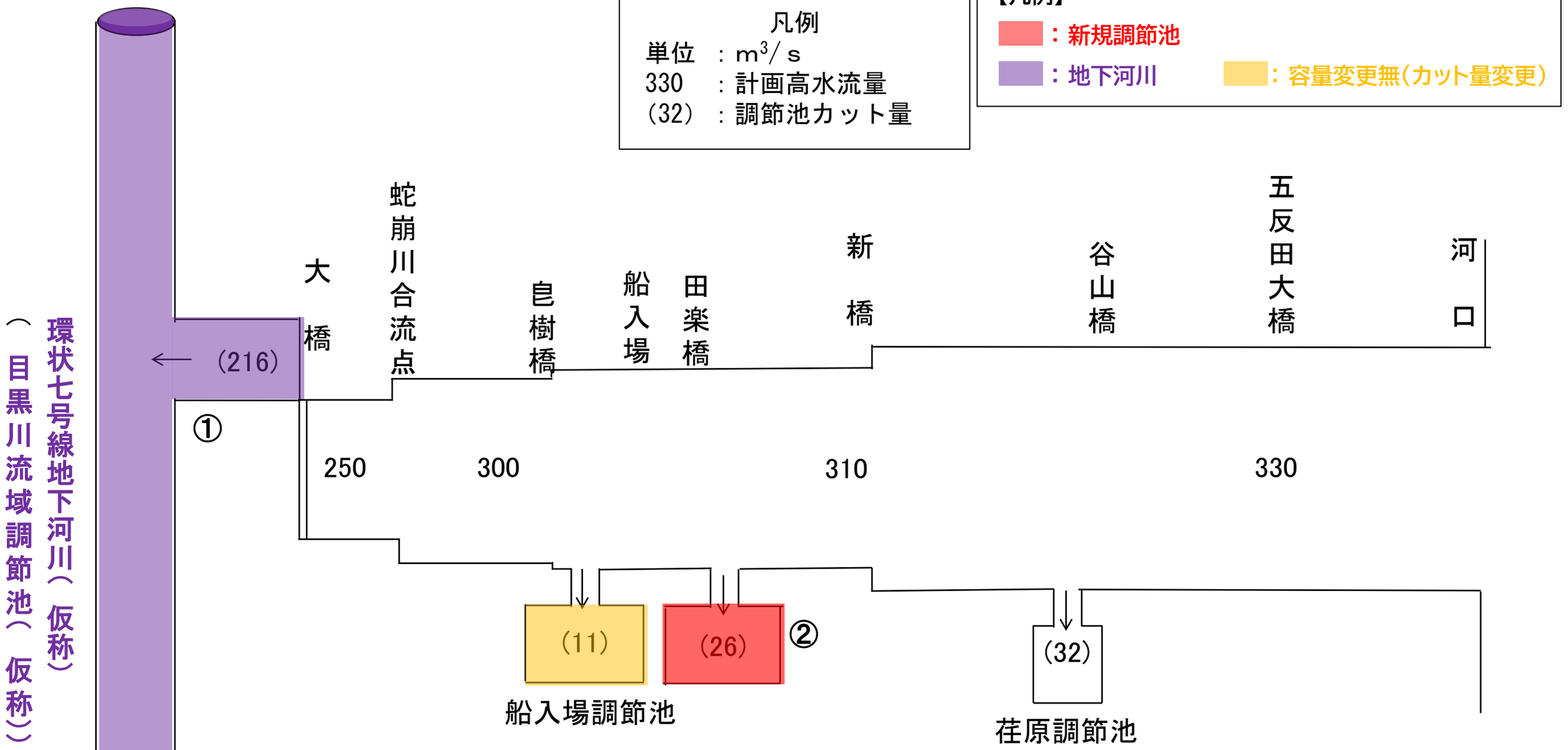


3　河川整備計画の目標及び実施に関する事項

－洪水、津波、高潮等による災害の発生の防止又は軽減－

■調節池の整備・地下河川の整備

●流量配分図の変更



※ 気候変動を踏まえた年超過確率1/20規模の降雨への対応は、50㎜規模の降雨に対応できる河道に加え、洪水を貯める調節池（上流域の河道への流出を抑制するための調節池等を含む）と流域対策を組み合わせて実現する。

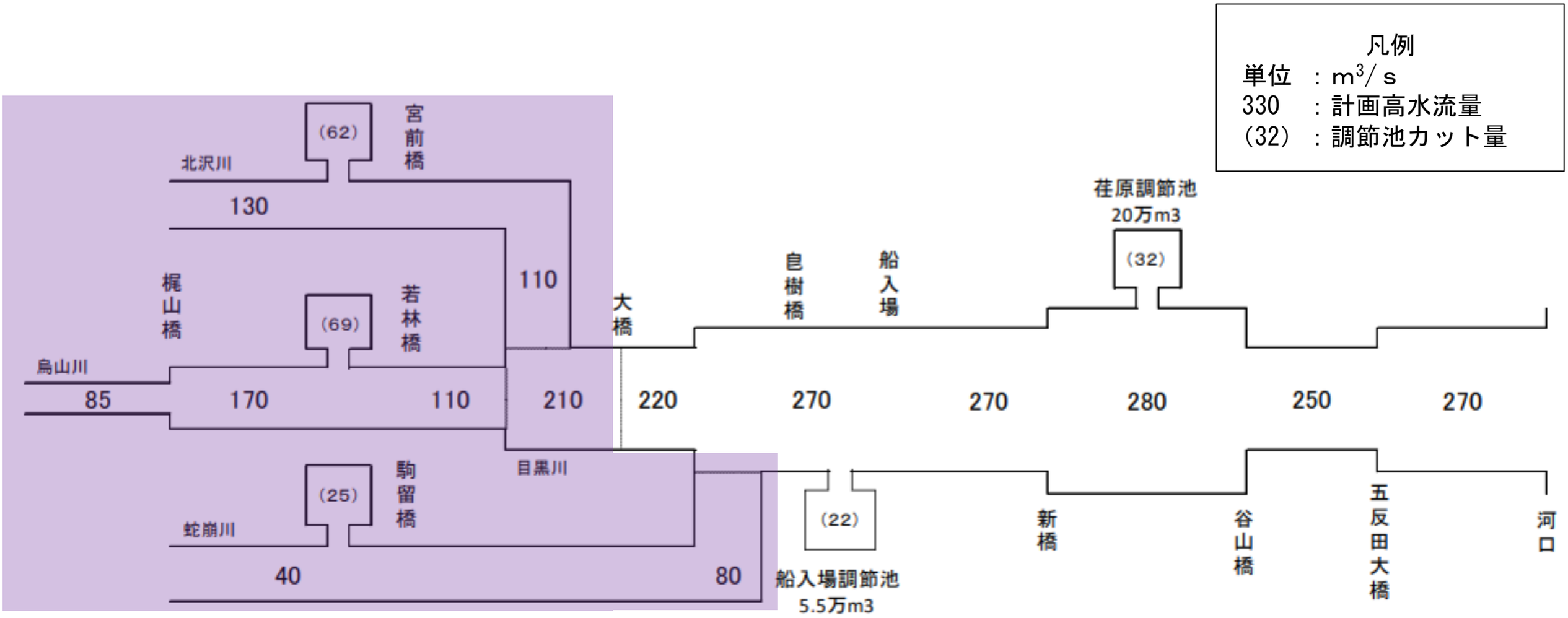
番号	位置	調節池容量（予定）	備考
①	最上流域	約472,000m³	目黒川流域調節池（仮称）
②	田楽橋～新橋	約154,000m³	

［※ 配置場所等の施設計画は、今後検討、調整 ］

3　河川整備計画の目標及び実施に関する事項

－洪水、津波、高潮等による災害の発生の防止又は軽減－

【参考】流量配分図（現行計画）



※目黒川上流域（上図紫色ハッチ）を変更計画では新規調節池（目黒川流域調節池（仮称））として扱う。

3　河川整備計画の目標及び実施に関する事項

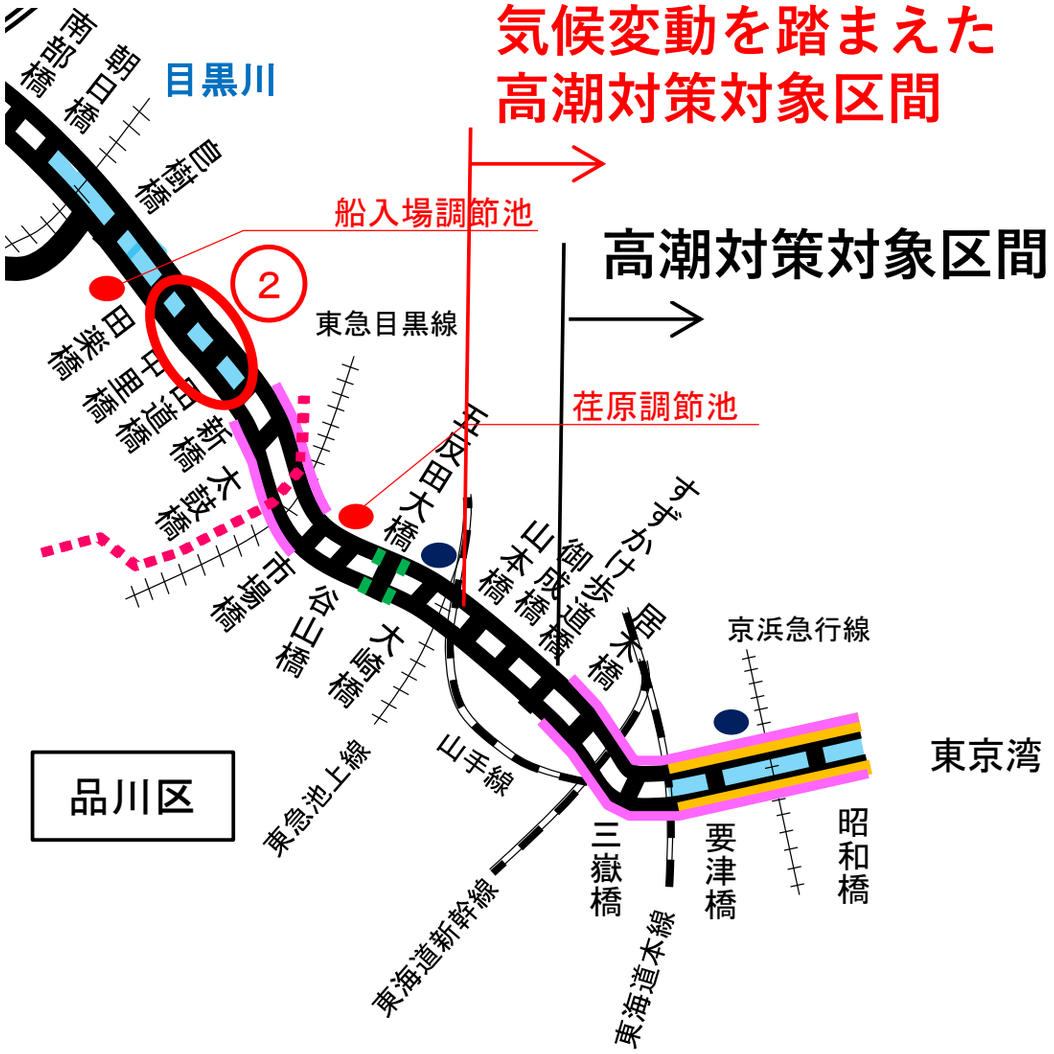
－洪水、津波、高潮等による災害の発生の防止又は軽減－

■防潮堤の整備

◆気候変動を踏まえた高潮対策対象区間の変更

（変更前）
河口から**すずかけ歩道橋**まで

（変更後）
河口から**山本橋上流**まで



◆気候変動を踏まえた計画高潮位の変更

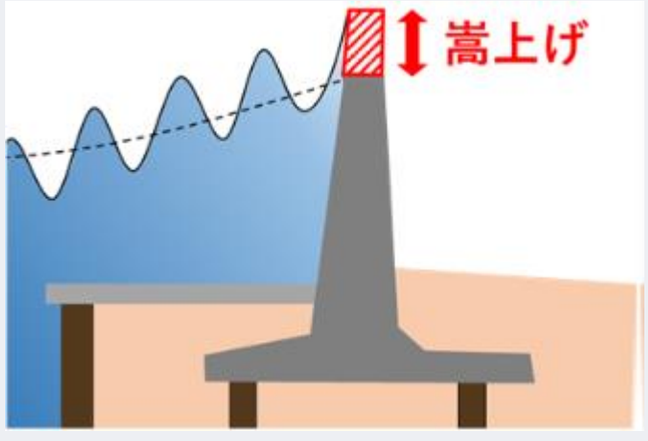
（変更前）　A.P.+4.1ｍ

（変更後）　**A.P.+4.9m（＋0.8m）**

◆気候変動を踏まえた整備内容の変更

（変更前）　防潮堤の整備

（変更後）　**防潮堤の整備（嵩上げ等）**



防潮堤嵩上げのイメージ

4　パブリックコメントの実施結果

＜意見聴取の実施概要＞

- 実施期間 ： 令和８年５月１５日～６月１５日（1か月間）
- 実施方法 ： 変更原案の公表、リーフレットの配布
- 実施場所 ： 都庁河川部、都・建設事務所（４箇所）、流域区市（６区市）、都HP
  ※都広報誌等への掲載、HPでの情報提供により周知

＜提出意見（総括）＞

- 洪水対策に関すること ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1件
- 河川環境に関すること ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1件
- 地域や関係機関との連携に関すること・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1件
- その他 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2件

合計５件

4　パブリックコメントの実施結果

寄せられたご意見等とそれに関する東京都の考え方（抜粋）

主な意見等	考え方（案）
◆洪水対策に関すること	
以前の計画では、上流3河川から個別に洪水を取水することが示されていたが、今回の変更原案では上流３河川の洪水を地下調節池に直接取り込む計画となっており、それにより下流にもう一つ調節池を検討するだけで計画規模の降雨に対応できることに驚いている。そのことから新たな調節池は、船入場調節池の下流で検討されると施工の点からもよいのではないかと思う。	本計画では、気候変動を踏まえた年超過確率１/20規模の降雨に対応していくこととしており、1時間当たり50mm規模の降雨に対応できる河道に加え、調節池等と流域対策を組み合わせて対応します。
◆河川環境に関すること	
目黒川は桜が綺麗なことから、河川がきれいだと良い。	護岸緑化や管理用通路等への植栽を実施した箇所については、引き続きその保全に努めていきます。

4　パブリックコメントの実施結果

寄せられたご意見等とそれに関する東京都の考え方（抜粋）

主な意見等	考え方（案）
◆地域や関係機関との連携に関すること	
流域には人口85万人、事業所3万箇所が存在し、民間主体の役割が大きいことから流域治水協議会の制度化やリアルタイム水位・雨量データの共有基盤の構築、AI・IoTを活用した水害予測・避難支援システムの導入を行うべきである。	本計画では、ハード対策と合わせて、ソフト対策も推進することとしています。ソフト対策では現在も、雨量や河川水位の情報を東京都水防災総合情報システムで提供するとともに、YouTubeを活用した河川監視カメラ映像をリアルタイムで配信しています。また調節池等の水害抑制効果についてもHPで公表しています。
◆その他	
シールド工事は事故ばかりなので他の工法でお願いしたい。	安全性に留意し、周辺環境や施工条件等を踏まえ、最適な施工方法を検討していきます。
令和５年に改定された東京都豪雨対策基本方針では、区部については時間85mmを目標降雨としており、河川整備の目標は今回変更する河川整備計画と同じ気候変動を踏まえた年超過確率1/20規模の降雨に対応（＝83mm？）となっている。この差分（2mm？）を調節池等の河川施設の拡大にて補わない理由と、差分はどこで対応するのか。	「東京都豪雨対策基本方針（改定）」では、河川における洪水対策、下水道による浸水対策や雨水貯留・浸透施設等の流域対策などを組み合わせて、１時間あたり85mmの降雨に対応していくこととしています。本計画では、1時間当たり50mm規模の降雨に対応できる河道に加え、調節池等と流域対策を組み合わせて対応します。